



YAMA NO
FUTOKORO

09

捕まえたのは、
明るい未来。

塘
さなえ

Ribbon
部門

株式会
社西村
商店

西村
明美

代表
取締役

株式会
社西村
商店

西村商店は、上峰町で金属リサイクル業を営み60年以上。2代目の西村明美さんが代表を務めるようになってからは、本業に軸足を置きつつも、他業種へも挑戦。新設された「社会貢献事業部」では保育園事業を展開。園に通う子どもたちが口にする安全な野菜を育てるために、農業も開始。さらに、社員である塘さなえさんの「猟師になりたい」という願いを叶えるべくRibbon部門も設立。事業が多岐にわたるなか、共通するのは、地域の未来を良くしたいという変わらぬ想いです。

金属リサイクル業

猟師

中山間地域の魅力

「私が生まれ育った佐賀市富士町は有害鳥獣の被害に悩んでいます。だから私は猟師になりたい!と会社に直談判したんです」と話す塘さなえさんは、元々、金属の端材を使ってアクセサリをつくるデザイナーとして採用された社員。そんな塘さんの想いに会社も応えます。「猪を捕まえた後はどうするの?ということと、会社として猪肉を使用した商品開発に着手しました」と代表の西村さん。栄養価が高い猪肉を、母親目線で安心して食べられる商品へ。猪肉の活用手段が見えてきたなか、狩猟免許を取得した塘さん。新しい循環が生まれようとしています。



取組

◎取組 1

金属リサイクル業60年以上。リサイクルやアップサイクルの意識が今より低かった時代から、先駆けるにこの地域で、業界をリードしてきました。近年は、保育園の開設や農業など、他の分野にもチャレンジしています。



◎取組 2

塘さんが抱く中山間地域への想いに、代表の西村さんが応えるカタチでスタートしたRibbon部門。猪を捕獲した後の「猪肉の活用」を会社がサポート。子どもたちが安心して食べられる肉まんやシュウマイを開発しています。



今後のチャレンジ



挑戦を支えられる組織でありたい。

これからも異業種への挑戦を会社として見守り続ける西村商店。「〇〇をしたいと言う社員がいれば、応援したい。働きやすい職場が、佐賀や日本の未来につながっていると信じています」と代表の西村さん。商品開発や仕組みづくりで、塘さんをはじめ、周囲の人の挑戦を支えます。

年間のスケジュール

